

## 南九州大学人間発達学部子ども教育学科子どもの学び研究所の取り組み概要

人間発達学部子ども教育学科子どもの学び研究所担当 赤松 國吉  
宮内 孝  
春日 由美  
趙 雪梅

## I はじめに

子どもの学び研究所は、本学部開設準備を進めていた平成21年度、子どもの学び研究室として先行開設し、人間発達学部子ども教育学科が開設された平成22年度から子どもの学び研究所として活動を継続している。活動を開始後3年目となる活動について経過をまとめる。

の1時間30分、子どもの学び研究所にて実施することを原則としている。以下、平成23年度の取り組みの概要である。

## (1) 主な研究内容

① 学部と連携拠点学校園との連携の内容、在り方について

② 小学校班及び幼稚園班別研究

## ア 小学校班

本学部春日由美講師の研究「児童・生徒及び保護者とのコミュニケーションを円滑にする目的で行う、教員のカウンセリング

## II 活動の具体

## 1 研究員の活動

研究員の活動は、月1回、16:30~18:00まで

平成23年度 子どもの学び研究所としての取り組み		
月日	曜日	主な研究活動内容
4月21日	木	研究員委嘱状交付式・第1回研究員会議（研究員及び大学側関係教員紹介・観察実習説明会・研究方向について）
5月24日	火	第2回研究員会議（観察実習直前指導・研究と連携の在り方について・幼小班別研究）
6月23日	木	第3回研究員会議（学生とのグループ別対談 テーマ「今どきの子どもたち」） （連携の具体的な進め方・小学校班・幼稚園班別研究について）
7月28日	木	第4回研究員会議（小学校班：観察実習についての省察） （幼稚園班：観察実習についての省察） （連携推進上の課題について）（小・幼班別の研究）
9月27日	火	第5回研究員会議（フィンランドから来都したペンティ・ハッカライネン教授とミルダ・ブレディキュ博士との対談） （特別支援教育の現状について）
10月27日	木	第6回研究員会議（本学部の内田芳夫教授を囲む対談） （小・幼班別の研究）
12月1日	木	第7回研究員会議（現代の子ども事情） （本学部の澁澤透教授を囲む対談） （小・幼班別の研究）
1月26日	木	第8回研究員会議（学生との対談：「日常の小学校及び幼稚園の様子や児童及び園児との取り組みについて」） （小・幼班別の研究）
2月23日	木	第9回研究員会議（小学校班：教員のカウンセリング的資質向上のための研修プログラムの開発）について） （幼稚園班：「ナレイティブプログラム（Narrativ Program）の実践について）
3月15日	木	第10回研究員会議（本年度の研究の総括及び次年度の研究及び連携の方向について）

的資質向上のための研修プログラムの開発」の協力的・補助的研究

イ 幼稚園班

本学部趙雪梅助手の研究「ナレイティブプログラム (Narrative Program) の実践について」の協力的・補助的研究

③ 本学学生への指導的立場からの活動

年間2回、各40分、現在連携学校園においてリアルタイムで行われている教育活動の現状を、学生との対談の中で紹介し、学生の学問及び研究に対する視点が、常に教育現場の今日的課題から遊離することのないよう促す。加えて、教育現場の研究者から学ぶ姿勢を学生に身に付けさせることをねらいとして行う。

本年度の学部と連携拠点学校園との具体的な連携については、昨年度からの基本姿勢を継続しながら「子ども支援地域活動」において学生に具体的に携わらせることを原則とすることとした。ねらいは、小学校及び幼稚園並びに保育の場に学生が参加し、子どもを支える地域の活動に参加することを通して、子どもの地域に果たす役割を実践的に理解し、それを支える活動の意味を把握させ、学部の講義で学んだことを単なる知識として終わらせるのではなく、実践的な力へと発展させることである。

昨年度が活動の開始年度として連携の基本的な事柄が整備された年として位置付けられるのに加えて、平成23年度は連携活動が一段と円滑化した年として位置付けられると考えている。

(2) 学部と連携拠点学校園との連携の内容、在り方の具体

以下、本年度の連携活動の実際を、三股西小学校との連携を例として述べる。

期 日	曜日	時 間	内 容
5月30日	月	15:30~16:30	心肺蘇生法講習会「AEDを使った心肺蘇生法」への参加 2年生5名(相良祐貴、瀬戸口聖、坂東里夏、安藤彩乃、中西希美代)の学生の参加
6月1日 ~ 6月3日	水 金	8:00~17:00	観察実習として6名の学生が実習を実施 1年3組鹿嶋美由紀教諭の御指導:木下由佳 3年1組黒木千穂教諭の御指導:安藤彩乃 3年3組吉川理子教諭の御指導:坂東里夏 4年3組高妻正英教諭の御指導:瀬戸口聖 5年2組中野聖子教諭の御指導:中西希美代 6年2組平田智希教諭の御指導:相良祐貴 ※ 6月2日 9:30~11:30まで担当教員として赤松國吉が訪問して校長他関係職員と面談
6月3日	金	10:00~11:30	4年1組古賀正洋教諭 国語教科の授業公開:文学教材「走れ」 参考資料1:学習指導案① 観察実習の一環として実施して下さった授業をVTRに録画
6月13日 ~ 7月26日	随時	学校の要請に基づき学生の空き時間	水泳指導のサポート支援活動 3名の学生(中西希美代、坂東里夏、安藤彩乃)が延べ20数回参加
6月22日	水	8:30~12:00	三股西小オープンスクール 全学級の公開授業に、連携拠点学校配属の学生のみならず10数名の学生と本学教員黒木哲徳、趙雪梅、赤松國吉の3名が参加
9月27日	水	10:20~16:20	ペンティ・ハッカライネン教授、ミルダ・ブレディキョ博士との意見交換会 ①10:20~11:05 学校経営説明 ②11:15~12:00 授業参観 ① 3年2組 渡邊 光浩教諭 算数科 単元名:三角形 参考資料2:学習指導案② 本時目標:ものさしとコンパスを使って二等辺三角形と正三角形が正しく作図できる

赤松・宮内・春日・趙：南九州大学人間発達学部子ども教育学科子どもの学び研究所の取り組み概要

期 日	曜日	時 間	内 容
			<p>③13：55～14：40 授業参観 ②2年2組 後藤 清隆教諭 算数科 単元名：ふえたりへったり 参考資料3：学習指導案③ 本時目標：増々の場面の問題をオペレータに着目し、 まとめて考える考え方で解くことができる。</p> <p>④15：30～16：20 意見交換会 三股西小学校全教員との意見交換会が和やかな雰囲気の中行われて両国の教育について理解を深めた。</p> <p>※大学側加教員及び学生 ① 教員 黒木哲徳、趙雪梅、宮内孝、國枝裕子、西村純子、赤松國吉の7名 ② フィンランドからの訪問教員 ペンティ・ハッカライネン教授、 ミルダ・ブレディキュ博士 の2名 ③ 参加学生 村上知穂、池崎花笑、西川アヤ、押川彩香の4名が参加</p>
10月20日	木	16：30～17：30	講演会「東日本大震災支援活動報告」講師：古賀 正洋教諭 1学年学生全員への講演会と質疑応答 黒木学部長、内田、國枝、西村、宮内、若宮、赤松等の教員も拝聴
10月26日	水	8：30～12：00	三股西小オープンスクール 全学級の公開授業に、6名（南里愛、橋本茉依菰、坂東里夏、安藤彩乃、木下由佳、千原大幸）の学生と本学教員赤松國吉が参加
11月20日	日	9：00～11：05 12：00～12：50 12：50～14：50 14：50～16：20	<p>① 三股西小学習発表会 学生13名及び黒木哲徳、趙雪梅、赤松國吉3名の教員が参加</p> <p>② 三股西小学校ふれあいフェスタ参加 ※活動の準備及び打合せ ※活動の開始及び活動 学校主催の活動に参加して、地域の住民や子どもの活動をサポートする。</p> <p>2年生 相良 祐貴：参加活動名：空気・水鉄砲づくり 木下 由佳：参加活動名：もちつき 安藤 彩乃：参加活動名：もちつき 坂東 里夏：参加活動名：アクセサリー 中西希美代：参加活動名：編み物 千原 大幸：参加活動名：木工作品づくり</p> <p>1年生 畝原 和也：参加活動名：ニュースポーツ 米森 公大：参加活動名：空気・水鉄砲づくり 野崎 亨太：参加活動名：ニュースポーツ 青木 露未：参加活動名：プラバンキーホルダー 今村 由：参加活動名：プラバンキーホルダー 村上 知穂：参加活動名：ニュースポーツ 菱口 弘隆：参加活動名：木工作品づくり</p> <p>※活動の後始末挨拶</p>
12月21日	水	9：50～10：30 10：30～11：15 11：15～11：40	<p>幼保小連携交流活動のサポート支援活動 目的：子ども支援地域活動をとおして、幼保小連携について知るとともに、交流活動において、交流活動が充実するための支援をしたり園児や児童の様子、教員（教諭・保育士）の指導法を観察する。</p> <p>① 挨拶・打合せ・事前準備 ② サポート支援活動 1年1組 福添佳栄子教諭補助 相良 祐貴 久保 文乃 1年2組 春田和美教諭補助 木下 由佳 坂東 里夏 1年3組 鹿嶋美由紀教諭補助 中村 健太 中西希美代 1年4組 出水久子教諭補助 安藤 彩乃 松榮 美加 ※ 教員は赤松國吉1名が参加</p> <p>③ 活動の後始末及び挨拶</p>
平成24年 2月2日	木	16：30～17：30	講演会「在外教育施設（日本人学校）での勤務をとおして」 講師：清水 聡校長 1学年学生全員への講演会と質疑応答 黒木学部長、内田、赤松、趙、大崎、磯部等の教員も拝聴

- 参考資料1 学習指導案①  
 参考資料2 学習指導案②  
 参考資料3 学習指導案③

る現職の先生方を対象とした研修であり、様々な状況が交錯する現代社会の中で学校教育に真剣に取り組む際の一助になればという企画から生まれたものである。

2 研究所の主催事業等

(1) 都城市及び三股町教育委員会との共催事業「教師のカウンセリング的資質向上研修」の実施

この研修会は、春日由美准教授が、2年間にわたって構想を練り、本学部子ども学び研究所の研究員の助言を参考としながら周到に準備することからスタートした研修である。対象は、幼稚園、小・中・高等学校及び特別支援学校などに勤務す

実現に至る経過としては、都城市及び三股町教育委員会のご支援ご協力の下、共同で主催するという共催を戴いた上で実施することが可能になったものである。案内状は都城市及び三股町、小林市、高原町の全小中学校、都城市内の特別支援学校の全教職員を対象として配付した。

以下、本研修の要点及び実施結果について述べる。

- ① 都城市及び三股町教育委員会との共催事業であること
- ② 実施の5原則
- ① 月1回実施
  - ② 8回連続受講が原則
  - ③ 研修時間は、勤務時間外90分(18:30~20:00)
  - ④ 7回以上参加した受講者には研修修了証を授与
  - ⑤ 参加費：無料
- ③ 参加希望者数：54名
- |                  |     |
|------------------|-----|
| 都城市内小中学校教諭：      | 32名 |
| 三股町内小中学校教諭：      | 11名 |
| 小林市内小中学校教諭：      | 4名  |
| 高原町内小中学校教諭：      | 1名  |
| 都城市内幼稚園園長・教諭：    | 1名  |
| 都城市小林市内特別支援学校教諭： | 4名  |
| 都城市教育委員会職員：      | 1名  |
- ④ 実参加者数
- |               |     |
|---------------|-----|
| 第1回 7月27日実施：  | 48名 |
| 第2回 8月17日実施：  | 41名 |
| 第3回 9月21日実施：  | 44名 |
| 第4回 10月19日実施： | 42名 |
| 第5回 11月16日実施： | 42名 |
| 第6回 12月14日実施： | 37名 |
| 第7回 1月18日実施：  | 35名 |
| 第8回 2月15日実施：  | 36名 |
- 延べ参加人数 325名
- ⑤ 修了証授与者数：33名
- ⑥ 研修内容及び参加案内状は次の通りである。(参考資料4)
- ⑦ 研修参加者の研修終了後のアンケート抜粋。(参考資料5)
- ⑧ 考察
- 本研修会を実施してまとめられることは次の点である。
- ① 現職の教員に必要な教師のカウンセリング的資質向上に関する研修のニーズの高さに支えられた極めて時季を得た事業であった。
  - ② 本研修は8回連続1サイクルの研修であったが、継続的研修により力量向上を目指す現場的ニーズに十二分に応えうる研修と成り得た。
  - ③ 春日准教授の講師としての力量及び専門性の高さが受講者の研修参加の意欲及び継続性の向上に大きく影響し、講師と受講者が信頼し合う研修と成り得た。
  - ④ 毎月1回の研修後のアンケートの結果の累積により受講者自らが自分の意識の変容に目覚め、受講意欲や受講継続へのエネルギーを持続させる研修となった。

(2) 都城市との共催事業の実施

この事業は、本学部趙雪梅助手が構想を練り、本学部子どもの学び研究所と都城市が共同主催する形の事業として実施始めて2年目を迎える事業である。昨年度は国内の研究者をゲストとして招

いての実施であったが本年度は、経済協力開発機構の実施するOECD生徒の学習到達度調査PISAにおいて好成绩で名高いフィンランドから2名の講師を招いて実施した。  
以下、実施概要である。

期 日	曜日	時 間	内 容
9月25日	日	13:50~16:30	<p>都城市・南九州大学人間発達学部子どもの学び研究所主催市民講座 「第2回学力向上シンポジウム」 テーマ： 異なった文化・異なった伝統・同じ理念 －子供の学習意欲を国際的視点から考える－</p> <p>①13:30 受付開始 ②13:50 歓迎の挨拶 南九州大学 長谷川二郎学長 都城市役所 岩崎透企画部長</p> <p>③14:00~14:50 講演1 「フィンランドにおける子ども教育の特徴」 講師ペンティ・ハッカライネン教授 同時通訳：趙雪梅助手</p> <p>④15:00~15:50 講演2 「情操豊かな子どもを育てるために」 講師 ミルダ・ブレディキュ博士 同時通訳：趙雪梅助手</p> <p>⑤16:00~16:30 ふれあいタイム ⑥16:30 閉会挨拶</p> <p>参加者 一般社会人約70名 学生 子ども教育学科1年生全員 子ども教育学科2年生赤松ゼミ宮内ゼミ学生合計9名 本学部教員 9名 合計130名を越す参加者 ※ 参考資料6 シンポジウム案内状 ※ 参考資料7 本学部一年生今村由の感想</p>
9月26日	月	10:00~16:30	<p>学校法人天竜学園天竜幼稚園訪問及びせい攝護寺訪問研修会実施</p> <p>①攝護寺訪問：攝護寺の沿革説明・本堂・納骨堂等施設案内 ：佐々木文雄住職</p> <p>②天竜幼稚園の沿革説明、施設案内：佐々木鴻昭園長</p> <p>③本学部1103教室において天竜学園4幼稚園の研修会を実施 石原教諭及び西村教諭並びに趙助手がナレイティブ実践を報告し、ミルダ・ペンティ両先生の指導助言を受け、優れている点や改善点を検討した。</p>
9月27日	火	10:20~16:20	<p>ペンティ・ハッカライネン教授、ミルダ・ブレディキュ博士との意見交換会</p> <p>①10:20~11:05 学校経営説明</p> <p>②11:15~12:00 授業参観 ① 3年2組 渡邊 光浩教諭 算数科 単 元 名：三角形 本時目標：ものさしとコンパスを使って二等辺三角形と正三角形が正しく作図できる</p> <p>③13:55~14:40 授業参観 ② 2年2組 後藤 清隆教諭 算数科 単 元 名：ふえたりへったり 本時目標：増々の場面の問題をオペレータに着目し、まとめて考える考え方で解くことができる。</p> <p>④15:30~16:20 意見交換会</p>

期 日	曜日	時 間	内 容
9月27日	火	10:20~16:20	三股西小学校全教員との意見交換会が和やかな雰囲気の中行われて両国の教育について理解を深めた。 同時通訳：趙雪梅助手  ※大学側加教員及び学生 ① 教員 黒木哲徳、趙雪梅、宮内孝、國枝裕子、西村純子、赤松國吉の7名 ② フィンランドからの訪問教員 ペンティ・ハッカライネン教授、ミルダ・ブレディキュ博士 の2名 ③ 参加学生 村上知穂、池崎花笑、西川アヤ、押川彩香の4名が参加
9月27日	火	17:00~18:00	子どもの学び研究所研究員との懇談会 ※子どもの学び研究所研究員13名との座談的懇談会 フィンランドから来日した2名の講師の疲労の状態を考慮して終了予定であった19:00時間を前倒して18:00に終了した。 同時通訳：趙雪梅助手
9月28日	水	14:30~16:30	宮崎県立都城西高等学校講演会 ① 13:30~14:30 校内施設案内 都城西高等学校卒業生である本学部1年生 今村由及び渡瀬美樹の2名が英語で案内を努める。 ② 14:30~16:30 生徒対象の講演会 今村由及び渡瀬美樹の2名が講師紹介を英語で行う 外国語学科3年生フロンティア科2年生合計80名対象 同時通訳：趙雪梅助手

(3) 平成23年度 免許状更新講習会実施報告

人間発達学部では、必修領域〈教育実践と教育改革〉と選択領域〈気がかりな子どもの支援〉の2つの講座を開設した(表1)。どちらの講座も、定員をこえる申込みがあり、とくに選択必修は受講希望者が多かったため定員を30名から40名に変更した。

本講習は、多人数伝達型の講義ではなく、少人数で受講者同士が「じっくり語り合い・聴き合う」ことで、受講者の今までの実践を振り返り、今後も先生としての自信と誇りをもって教壇に立ちてもらいたいという願いで開講した。

そのため、定員を30名と少なくして、講義では、グループでのディスカッションや演習等を多く取り入れるようにした。また、校種や年齢、教科等の異なるメンバーのグループを編成して、異なる立場、異なる教育実践を交流することで、新たな気づきが生じるように配慮した。

その結果、講習会終了時に行ったアンケートでは、受講者から肯定的な評価を多くいただいた

(表2)。また、受講者からは「現場にすぐ生かせる具体事例を多く含んだ講義内容にもっと欲しい」「選択領域の講座数をもっと増やして欲しい」「夏季休業中に実施して欲しい」など、講習の内容や講座数、実施時期等のご意見をいただいた。これらのご意見を参考にしながら、受講者が教員としてやる気や勇気を得ることができるような講習に、受講者とともにつくり上げていきたい。

参考資料8 表1

参考資料9 表2

(4) 中国上海師範大学附属小学校等との連携

本年度9月には、上海師範大学との交換留学生についての協定締結に向けての事前打ち合わせのため、上海師範大学を訪問した。その際、上海師範大学附属幼稚園及び同大学附属小学校並びに、上海日本人学校を表敬訪問した。訪問者は、黒木哲徳学部長、宮内孝准教授、趙雪梅助手、赤松國吉教授の4名であった。

その際、上海師範大学附属小学校のホームページに紹介された記事を参考資料として掲載する。

参考資料10

(5) テクニカルレポートの発行

子どもの学び研究所では、本学部教員が研究した論文等をテクニカルレポートとして発行している。平成21年度からこれまでの累積は次の表の通りである。

番号	論文等のタイトル	発行期日	教員名
1	小学校社会科教育に関する教材開発集・社会科編第1号 小学校社会科5年生の教科教育に位置付けた平成17年台風14号	H21. 9 .30	赤松 國吉
2	小学校社会科教育に関する教材開発集・社会科編第2号 小学校社会科教育において児童の主体的な学びを促す実践研究	H21.10.30	赤松 國吉
3	現代社会と道德教育 －「市民教育としての道德教育」の提唱－	H21.11.30	澁澤 透
4	子どもたちのいまと子育てについて考える －自己肯定感を高める子育てに向けて－	H22. 1 .30	澁澤 透
5	大学における子育て支援の現状と課題	H22. 3 . 1	春日 由美
6	子どもの年齢による子育ての悩みの差異に関する一考察 －乳幼児から中学生の保護者への質問紙調査を通して－	H22. 3 .25	春日 由美
7	子どもの内発的興味関心を喚起し、能動的に調査活動に取り組む小学校社会科の教材開発 －平成18年台風13号による宮崎県延岡市の被害－	H23. 3 .25	赤松 國吉
8	教師と保護者との関わりに関する文献的研究	H23. 3 .31	春日 由美
9	小学校6年生「電子メディアと心身の発達を考える」授業実践報告	H23. 3 .31	宮内 孝
10	「大正新教育における学校図書館の理論と実践に関する一考察」	H23. 3 .31	國枝 裕子

6 今後の展望及び課題

本学部及び小学校並びに幼稚園が相互の連携協力を深め、お互いの研究や資質向上を目指し、教育現場と大学がそれぞれの立場や角度から学びあいながら相互の連携の在り方についての研究及び人間の発達や育ちに関する研究を進めることをねらいとして活動を開始して3年を経過する。

未来に向けては、都城及び三股町を含むこの地域の教育現場の教員や学生そして大学関係者が、互いの垣根を低くして実践研究を協働し、この地域の教育の核となるような取り組みへと活動を拡大することを究極のねらいとしている本研究の取り組み、少しずつ、着実な成果が生まれようとしている。

今後、本学部と学部を取り巻く地域との関わりの中で、どのように連携を図りながら、組織化を促し、研究を結実していくか着実な歩みの中から生み出していきたいものである。

7 研究員名簿及び大学側関係教員名簿

整理番号	平成 21 年 度			平成 22 年 度		
	連携学校園名	職名	氏 名	連携学校園名	職名	氏 名
1	天竜幼稚園	教諭	上原 睦子	天竜幼稚園	教諭	上原 睦子
2	天竜第二幼稚園	教諭	北園由美子	天竜第二幼稚園	園長	荒武 公治
3	天竜第三幼稚園	教諭	川野あや子	天竜第二幼稚園	教諭	北園由美子
4	天竜祝吉幼稚園	教諭	田実 美幸	天竜第三幼稚園	教諭	川野あや子
5	都城市立南小学校	教諭	西村浩一郎	天竜祝吉幼稚園	教諭	田実 美幸
6	都城市立東小学校	教諭	田爪 隆敏	都城市立南小学校	教諭	鶴山 匡文
7	都城市立上長飯小学校	教諭	田中 美充	都城市立東小学校	教諭	大久保 修
8	都城市立祝吉小学校	教諭	甲斐 千恵	都城市立上長飯小学校	教諭	田中 美充
9	三股町立三股小学校	教諭	細山田和彦	都城市立祝吉小学校	教諭	渡邊 政彦
10	三股町立三股西小学校	教諭	二宮 聡	三股町立三股小学校	教諭	細山田和彦
11				三股町立三股西小学校	教諭	二宮 聡

整理番号	平成 23 年 度		
	連携学校園名	職名	氏 名
1	天竜幼稚園	教諭	上原 睦子
2	天竜第二幼稚園	園長	荒武 公治
3	天竜第二幼稚園	教諭	北園由美子
4	天竜第三幼稚園	教諭	川野あや子
5	天竜祝吉幼稚園	園長	大坪 文二
6	天竜祝吉幼稚園	副園長	佐々木慈舟
7	天竜祝吉幼稚園	教諭	田実 美幸
8	都城市立南小学校	教諭	西村浩一郎
9	都城市立東小学校	教諭	田爪 隆敏
10	都城市立上長飯小学校	教諭	田中 美充
11	都城市立祝吉小学校	教諭	甲斐 千恵
12	三股町立三股小学校	教諭	細山田和彦
13	三股町立三股西小学校	教諭	二宮 聡

整理番号	平成 21 年 度			平成 22 年 度		
	大学学部名	職名	氏 名	大学学部名	職名	氏 名
1	南九州大学環境園芸学部	教授	長谷川二郎	南九州大学環境園芸学部	教授	長谷川二郎
2	南九州大学教養・教職センター	教授	黒木 哲徳	南九州大学人間発達学部	教授	黒木 哲徳
3	南九州大学教養・教職センター	教授	赤松 國吉	南九州大学人間発達学部	教授	赤松 國吉
4				南九州大学人間発達学部	准教授	宮内 孝
5				南九州大学人間発達学部	助手	趙 雪梅

整理番号	平成 23 年 度		
	大学学部名	職名	氏 名
1	南九州大学環境園芸学部	教授	長谷川二郎
2	南九州大学教養・教職センター	教授	黒木 哲徳
3	南九州大学教養・教職センター	教授	赤松 國吉
4	南九州大学人間発達学部	准教授	宮内 孝
5	南九州大学人間発達学部	准教授	春日 由美
6	南九州大学人間発達学部	講師	大崎 裕子
7	南九州大学人間発達学部	助手	趙 雪梅



## 参考資料1 学習指導案①

第4学年1組

国語科学習指導案

平成23年6月3日

指導者 古賀正洋

1 単元名 人物の気持ちや様子を考えながら読もう（教材名：走れ）

### 2 目標

- 物語に興味を持ち、人物の気持ちや様子に気をつけて読もうとする。 【関心・意欲・態度】
- 読み取った内容を、友達と積極的に話し合うことができる。 【話すこと・聞くこと】
- 自分の感想を中心に、思ったこととその理由などを文章に書くことができる。 【書くこと】
- 中心となる人物に着目し、その性格や気持ちの変化を読み取ることができる。 【読むこと】
- 人物の気持ちが表れている言葉に気づき、正しく理解することができる。 【言語事項】

### 3 指導観

- 本単元は、学習指導要領の第3学年及び第4学年の内容「C 読むこと」の「(1)のウ：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」を主なねらいとして構成されている。

教材文「走れ」は、小学4年生の女兒「のぶよ」の立場から、家族の絆の大切さについて書かれた物語である。教材文のあらすじは以下のとおりである。

のぶよは、母と弟（けんじ）の3人家族である。春の運動会の日を迎えるが、のぶよは走るのが苦手であり、気が重い。のぶよの気を更に重くしているのは、母親と弟のことである。

母親は子どもたちを応援に行きたいが、一人で切り盛りしている弁当屋の仕事があって、思うようにいかず、去年はとうとう応援に来ることすらできなかった。一方、2年生の弟は走るのが得意で去年は1位でゴールしたが、その姿を母親が見てくれなかったことで大泣きした経験がある。今年こそは勇姿を母親に見て欲しいと願っている。母と弟の間に立って姉であるのぶよは心を痛め、余計に憂鬱になってしまう。

今年の運動会も、母は忙しくて弟の徒競走に間に合わず、そのことに腹を立てた弟は、母の作った弁当も食べずに走り出す。のぶよは、割り箸の袋の言葉にこめられた母の思いを弟に伝える。

のぶよたちの徒競走が始まり、スタートと同時に出遅れたのぶよに、母と弟の声援が聞こえてくる。母と弟の二人が、絆を回復させ、一緒になって自分を応援してくれていることに力を得て、のぶよは晴れやかに走りきる。

児童にとって身近な行事である運動会を題材とし、母や弟への思いという児童にとって共感しやすい気持ちが綴られた物語である。

この期の児童は、下級生から上級生になり、自分の思いだけでなく、周りの人の立場や気持ちを考えて行動することが求められるようになる。しかし、まだ他人の言動の表面だけを見てしまうことが多いのが現状である。従って、人物の様子とその奥にある気持ちを読み取る学習をすることは、児童の文章読解力を高めるだけでなく、他を思いやる心を育てる上でも意義深い。

指導の系統は、次のとおりである。

#### □第3学年

5月 出来事を読み取りあらすじをまとめる。（ゆうすげ村の小さな旅館）

10月 人物の気持ちの変化に気をつけて読む。（サーカスのライオン）

#### ☆第4学年

5月 中心となる人物の、物語全体を通した様子や気持ちの変化を読み取る。（本単元）

10月 場面の移り変わりに気をつけ、人物の関係や気持ちの変化を読み取る。（ごんぎつね）

- 本学級の児童（男子16名、女子21名、計37名）は、素直で、学習にも真剣に取り組むことができる。読書好きな児童も多く、読書の時間などには集中して読書に取り組む姿が見られる。特に、同年代の主人公が登場する物語文を好んで読む児童が多く、登場人物に同化して、物語の世界を味わうことができる児童が多い。

国語科での文章の読解については、短い時間で文章のあらすじや自分の感想をまとめることができる児童がいる一方で、語彙力不足が原因でスムーズに読み進められない児童や、書かれた内容を理解するのに時間がかかる児童もいて、個人差が大きい。

5月に学習した説明的文章教材「ヤドカリとインギンチャク」では、どこにどんなことが書かれていたかを読み取ることはできていたが、段落相互のつながりや筆者の意図などを読み深めることには苦勞した児童が多かった。このことから、本単元でも、人物の気持ちの変化やその理由について深く読み取らせるには、丁寧な指導が必要であると考えられる。

- そこで、本単元の指導に当たっては、次の点に留意して指導にあたることにする。

(1) 指導計画の導入段階で、扉のページを使って学習の見通しをしっかりとさせる。

読解の視点をつかませる手立てとして、「走れ」という題に着目させる。応援の言葉であることを理解させた上で、誰か誰を応援する話か考えさせることで、何が主題か疑問を持たせ、登場人物の様子や気持ちの変化を読み取っていかうという意欲を高める。

(2) 教材文の主題を明確にし、主題に繋げるという視点で各場面の読み取りを行わせる。

本教材文の主題が、家族全体の絆にあることを基底とし、各場面の人物の様子や気持ちの移り変わりを、主題と関連づけて読み取らせるようにする。具体的には、①の場面で、家族を思いながら仕事に励む母親の思いを、②の場面で、母にいいところを見せたいと思う弟の思いを、③の場面の前半では、二人の間に立って悩むのぶよの思いを丁寧に読み取らせ、最後の場面で主題に迫らせる。

(3) 児童が、自分の読みの深まりを実感できる場面を、指導計画の深める段階に位置づける。

指導計画の導入段階で考えた題の意味を、深める段階で改めて考える場面を設けることで、児童が読解の成果を実感できるようにする。

4 指導計画（全9時間）

段階	主な学習内容及び学習活動	時数	評価の観点と評価方法
つかむ	1 扉のページに書かれた題名や単文を手がかりに、学習の見通しをもつ。	1	・ 物語に興味を持ち、これからの読解に意欲的に取り組もうとしている。 【発言・行動観察】
見通す	2 場面ごとに出来事をおさえる。 ○ 中心人物の心情変化を手がかりに場面分けを行う。 ○ 登場人物の様子や行動を中心に、出来事の流れを大きくまとめる。	1	・ 場面ごとに、登場人物や主な出来事をおさめ、出来事の流れを大きくまとめることができる。 【発言・ノート】
調べる	3 場面ごとに、主題に繋がる人物の気持ちを読み取る。 ①の場面 運動会の応援に来れない母親の思いを中心に ②の場面 自分の活躍を母親に見せたい弟の思いを中心に ③の場面 中心人物であるのぶよの心情の変化を中心に	4 (1) (1) (2)	・ 人物の行動や会話などの叙述をもとに、人物の気持ちやその変化の様子を読み取っている。 【発言・ノート】
深める	4 物語の主題について考えを深める。 ○ 中心人物の気持ちが大きく変化した原因を考えさせ、改めて「走れ」という題の意味について考える。	1	・ 調べる段階での学習を生かし、「走れ」という題の意味について、主題に迫る考えをもつことができる。 【発言・ノート】
まとめる	5 読み取った人物の心の動きを参考にして、物語の続きを考え、交流する。	2	・ 自分の考える物語の続きを、理由を明確にして書き、発表し合うことができる。 【ノート・発言】

5 本時の目標

- 題名と扉のページの短文を手がかりに、中心となる人物の様子や気持ちの変化を読み取っていくという学習の見通しをもつことができる。

6 授業仮説

- 扉のページの短文を手がかりに、題名である「走れ」は、誰が誰に対して応援する話かを考えさせることで、児童は、中心となる人物の様子や気持ちの変化を読み取っていくという本単元学習の見通しをもつことができるであろう。

7 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	○指導上の留意点 ◇評価の観点	資料・準備
つかむ (5)	1 本時のめあてを知る。 学習の見通しをもとう。	○ 新しい単元ではどんなことを学習するのか、という学習の見通しをもつことを本時のめあてとして示す。	
見通す (10)	2 「走れ」という言葉について考える。 ○ 「走る」と「走れ」の違いは何か考える。 ・ 命令する ・ 応えんする ↓ 誰が誰を応援するのだろう。	○ 「走る」と「走れ」を用いた短文を作らせることで、言葉の意味をとらえさせ、題の意味について考えさせる。	
調べる (10)	3 扉のページの短文を読み、登場人物について考える。 ○ 「ゆううつ」の意味を知る。  ○ のぶよは、なぜ運動会がゆううつなのか考え、話し合う。	○ 憂鬱の意味を説明した後、例文を紹介したり経験を語らせたりすることで、児童の理解を深める。 ○ 共感する児童の思いを中心に、運動会を憂鬱に思うのぶよがどんな人物か想像させ、話し合わせる。	のぶよのイラスト
深める (15)	4 題「走れ」について考える。 ○ のぶよ以外の登場人物について知る。 ・ 母親…弁当の仕出し屋で働いている。 ・ 弟(けんじ) …2年生。走るのがとても速い。 ○ 誰が誰を応援する「走れ」なのか考える。 ・ 母親と弟が、走るのが遅いのぶよを応援する。 ・ これで話が盛り上がるのか？	○ この話が、のぶよと母親、弟の3人家族の話であることを知らせ、それぞれの人物について簡単に紹介する。  ○ 応援という言葉から、児童はすぐに「母親や弟が足の遅いのぶよを応援する」と考えがちである。そこで、家族が足の遅い子を応援するのは当然であり、それだけでは物語になり得ないことを説明し、次時以降の読解の視点を明確にする。	母のイラスト 弟のイラスト
まとめる (3)	5 今後の学習のねらいをまとめる。 ○ 登場人物の様子や気持ちの変化を読み取って、題の意味をはっきりさせよう。	○ これから、登場人物の様子や気持ち饒辺かを読み取って、誰が誰を応援して、どうなる話かを明確にしていくことを読解の視点として示す。 ◇ 読解の視点を理解して学習の見通しをもつことができているか (観察・発言)	

8 板書計画

6/3

走れ  
めあて

これからの学習の見通しをもとう

走れ!! 命令・応えん

が

を応えん

今日は、春の運動会。の  
ぶよには、ゆううつな日  
です。

登場人物

のぶよ 母 弟

- ・ 運動会がゆううつ
- ・ 足がおそい

まとめ

登場人物の様子や気持ちの変化を  
読み取って、題の意味をはっきり  
させよう。

## 参考資料2 学習指導案②

第3学年2組

算数科学習指導略案

平成23年9月27日4校時  
指導者 渡邊 光浩

■ 単元名 三角形

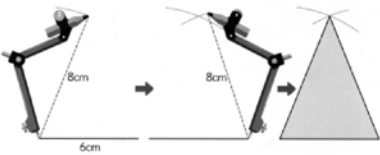

■ 本時の目標

- ものさしとコンパスを使って、二等辺三角形と正三角形が正しく作図できる。 [表現・処理]

■ 本時参観のポイント

教科指導におけるICT活用	フラッシュ型教材：次々と問題を大きく提示し、繰り返し学習を行うことで、集中力を高めながら、知識の定着を図る。 実物投影機：大きく映して、注目させるところを指し示したり、子どもと同じ道具・ワークシートで操作をやって見せたりすることで、指示・説明を分かりやすくする。
---------------	--

■ 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点(○)と評価(◎)	資料・準備
事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 復習               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ コンパスの使い方</li> </ul> </li> <li>◆ 予習               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 二等辺三角形の作図</li> </ul> </li> </ul>	○ コンパスの使い方を復習してレディネスをそろえたり、教科書を見ながら三角形を描く予習をさせたりしておくことで、本時学習に安心して取り組ませる。	練習問題 教科書 ワークシート
つかむ・見通す	1 前時までの学習を振り返る。 ○ 二等辺三角形の定義 ○ 正三角形の定義  2 本時の学習問題と学習目標を把握する。 ① じょうぎとコンパスを使って、次の三角形をかきましょう。	○ フラッシュ型教材を使って繰り返し声に出させることで、二等辺三角形や正三角形の定義の定着を図る。  ○ 児童とやりとりをしながら学習目標を設定することで、本時学習に対する関心を高めつつ、見通しを持たせる。	コンピュータ デジタルTV フラッシュ型教材  教科書 学習課題
7分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           じょうぎとコンパスを使って、二等辺三角形や正三角形をかけるようになる。         </div>		
調べる・練り上げる	3 二等辺三角形の描き方を考える。 ア 辺の長さが6cm, 8cm, 8cmの二等辺三角形  <ul style="list-style-type: none"> <li>① 1つの辺をかく。</li> <li>② コンパスを残りの2つの辺の長さに合わせ、印をつける。</li> <li>③ 印がまじわったところをちょう点として、残りの辺をかく。</li> </ul>	○ 実物投影機で教師の手元を大きく映しながら描き方の確認を行うことで、手順を効率的かつ確実に把握させる。 ○ 予習をもとに描き方を考えさせることで、手順や留意点の確認を、焦点的・分析的に行う。 ○ コンパスを使う意味や印をつけるもののイメージを持つことなどを押さえ、思考や理解の深化を図る。	ものさし コンパス 実物投影機
18分	4 確認したことをもとに、二等辺三角形を描く。	○ つまずいている児童には、手順を確認させながら、自力解決ができるよう支援する。	ワークシート
たしかめる	5 正三角形の描き方を考え、描く。 イ 辺の長さが6cmの正三角形 	○ アの印との違いを考え、正三角形の定義を振り返らせることで、その描き方に見通しを持って取り組ませる。 ○ 早く終えた児童には、描き方の説明の仕方を考えさせる。	

18分 まとめる 2分	6 適用題を解く。 (1) 教科書の練習問題 ② ② 辺の長さが5cm, 4cm, 4cmの二等辺三角形 ④ 辺の長さが5cmの正三角形  (2) 問題集・問題づくり	◎ 二等辺三角形や正三角形を作図することができるか。 [表現・処理]〈観察・ノート〉 ○ 速く終えた児童には別の問題に取り組みせたり、自分で問題を作らせたりして、さらに定着を図る。	問題集
	8 本時学習のまとめをする。	○ 分かったことを振り返らせることで本時のまとめとするとともに、できるようになったことを賞賛し、次時以降の学習に対する意欲を持たせる。	
事後	◆ ドリル学習 ◆ 家庭学習	○ 繰り返し練習させることで、確実な定着を図る。	練習問題

■ 板書計画

9/27  
P.5



1

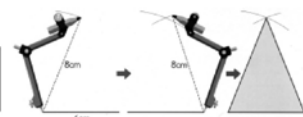
三角形

じょうぎとコンパスを使って、二等辺三角形や正三角形をかけるようになろう。

ア 辺の長さが6cm, 8cm, 8cmの二等辺三角形


2つの辺の長さが同じ三角形を二等辺三角形といいます。



- ① 1つの辺をかく。
- ② コンパスを残りの2つの辺の長さに合わせ、印をつける。
- ③ 印がまじわったところをちょう点として、残りの辺をかく。

イ



6

- ① 辺の長さが5cm, 4cm, 4cmの二等辺三角形
- ② 辺の長さが5cmの正三角形

問題集  
問題作り

■ 提示資料

- フラッシュ型教材

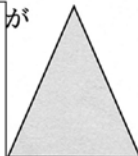
大きな声で  
読みましょう！

2つの辺の長さが  
同じ三角形  
とといいます。

□の辺の長さが  
同じ三角形  
とといいます。

□が  
同じ三角形  
とといいます。

2つの辺の長さが  
同じ三角形を  
二等辺三角形  
とといいます。



### 参考資料3 学習指導案③

第2学年2組

算数科学習指導案

平成23年9月27日5校時  
指導者 後藤 清隆

#### 1 単元 ふえたり へったり

#### 2 目標

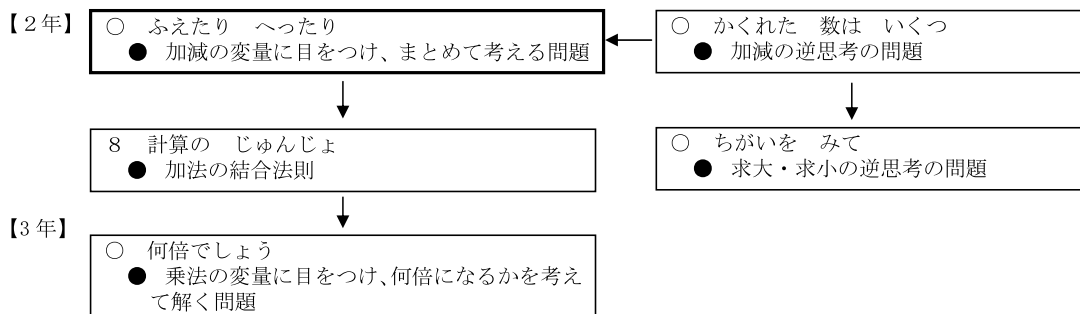
- 増減する数量に着目して、「まとめて考える」という考え方のよさに気付き、これを活用しようとする。 【算数への関心・意欲・態度】
- 増減する数量に着目し、まとめて考えることができる。 【数学的な考え方】
- 増減する数量を、数図ブロックを操作して表したり、図や式に表したりして説明することができる。 【技能】
- 増減する数量に着目し、「まとめて考える」という考え方を理解する。 【知識・理解】

#### 3 指導観

- 本単元は、学習指導要領「A数と計算(2)加法及び減法についての理解を深め、それらを用いる能力を伸ばす。」の「ウ加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。」を受けて設定されたものである。

本単元までに児童は、「かくれた数はいくつ」で、数量の関係をテープ図(線分図)に表し、加法と減法の相互関係について理解することを学習してきた。本単元では、この既習事項を生かしながら、加減の組み合わせられた、3要素2段階の問題を加減のオペレータ(変量)に着目した考え方で解くことができることをねらいとしている。そして、「計算のじゅんじょ」の加法に関する結合法則と( )を用いた式の計算の学習、第3学年の「何倍でしょう」の乗除のオペレータに着目した考え方で解く学習につながっていく。

本単元の系統は次のとおりである。



本単元を学習することは、児童が問題を順序よく考えるだけでなく、オペレータに着目して「まとめて考える」考え方を身に付けることができ、問題の数量関係を単純化し、簡潔に解決できるという事象を簡潔かつ明瞭に表し、その処理を能率的に進めていく能力を育てる上で大変意義深い。

- 本学級の児童(男子13名、女子13名)は、算数科の学習に対する関心の高い児童が多く、意欲的に学習に取り組むことができる。理解の速い児童も多く、難易度の高い問題に競い合って挑戦している姿も見られる。しかしながら、落ち着いて問題を解答できず、小さなつまずきに対応できなくなつて安易に誤答を書いてしまつたり、間違つた認識をしてしまつたりする児童もいる。これまでの学習の経験を生かして自分の力で問題を解決しようとする児童は少ない。

本学級の児童の文章題について、「かくれた数はいくつ」における評価テストの平均は80%で、理解できている児童は多いものの、求残、求差の問題になるとテープ図や式に表せなくなる児童もいる。

計算力については、「たし算とひき算」の評価テストの技能正答率は平均82%、「たし算とひき算のひき算(1)」の技能正答率は平均88%だった。筆算の学習で繰り上がり繰り下がりを書くことができるようになってから、計算力が向上した。一部に繰り上がり繰り下がりの「1」を書けない児童もいたが、処理のよさに気付かせることと、筆算のアルゴリズムを再度確認させながら学習させることで正しく解答できるようになってきた。

思考力については、たし算とひき算の筆算の数学的な考え方を見る評価テストでは、たし算は64%、ひき算は53%と低かった。筆算のアルゴリズムに則つて計算すると解答できるが、計算途中の十の位の計算だけを繰り上がり繰り下がりに注意して解答することは困難であった。まだ数量の関係を理解して正しく解答できるという児童は多くない。

これは、学習内容において学習意欲の差が見られるためと考えられる。特に、計算問題や算数的

活動の作業的な算数的活動に偏りがあり、各種活動のあとに文章にまとめる、発表するといった思考・表現の面において苦手意識をもっている児童がおり、授業中に発表して自分が考えた方法等を説明することができないでいる児童も少なくない。

- そこで本単元の指導にあたっては、増増や増減、減増の場面の問題に取り組ませ、オペレータに着目することで3要素が2要素になり処理しやすくなることをつかんでいけるように学習を展開していきたい。その際、数量をしっかりと確認させ、操作的活動を行わせることで、オペレータをまとめることができることを理解させたい。

特に本時の学習においては、導入段階で前時に順序よく考える方法とオペレータに着目してまとめて考える方法があったことを確認し、本時はまとめて考えるよさを見つけていく活動をするを伝え、本時のめあてをつかませたい。

問題場面の把握では、問題文の数の要素や聞いていること、答えの単位に囲みや下線を書かせて、増増の問題であることを理解させたい。

展開Ⅰの段階では、絵や図・数図ブロックを操作して、増加する数量に着目させながら自力解決を図らせる。支援が必要な児童については、ヒントとなる矢印枠のカードを配り、その上で数図ブロックの操作を行わせ、増加する数量から計算することに気付かせたい。

展開Ⅱの段階では、全体の場合、絵や図、数図ブロックを操作したことや式に表したことを話し合い、増加する数量に着目して、まとめて考えることのよさをつかむようにする。実物投影機を使用して、絵や図を書いたノートや数図ブロックを操作する様子を映し出し、自分の考えがよく伝わるようにさせたい。

その後、本時のめあてを振り返らせ、先に増加した部分を計算し、問題文を再度見直すと、3要素が2要素になり、まとめて考えると簡単に解答できることを確認させたい。

終末段階では、練習題を行わせる。矢印枠があらかじめ書いてあるプリントで解答させ、まとめて考える方法の習熟を図らせたい。

4 指導計画 (全3時間)

主な学習内容及び学習活動	時間	おもな評価計画
○ 増増の場面について、順に考えたりまとめて考えたりする問題	3時間 (1)	○ 順に考えたり、まとめて考えたりするなどして、進んでいろいろな考え方で解こうとする。(発言・ノート) 【関・考】
○ 増増の場面について、まとめて考える問題	(1) (本時)	○ オペレータに着目し、まとめて考える考え方で解くことができる。(発言・ノート) 【考】
○ 増減や減増の場面について、まとめて考える問題	(1)	○ 増減の場面の問題を、差し引きいくら増えたことになるかを考えて解くことができる。(発言・ノート) 【考】

5 本時の目標

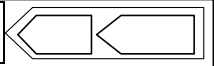
- 「まとめて考える」という考え方のよさに気づき、これを活用しようとしている。 【関心・意欲・態度】
- ◎ 増増の場面の問題を、オペレータに着目し、まとめて考える考え方で解くことができる。 【数学的な考え方】
- 増増する数量を、数図ブロックを操作して表したり、図や式に表したりして説明することができる。(個人研究に伴う目標) 【技能】

6 本時参観のポイント

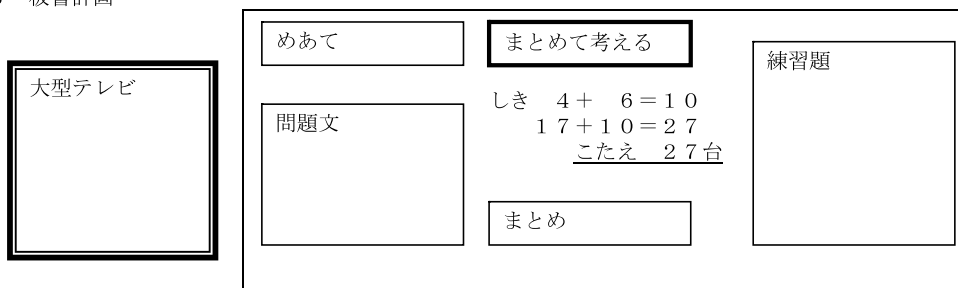
研究主題及び副題	達成感を味わうことのできる児童の育成 ～算数科における表現力の育成を通して～	段階	展開Ⅱ	時間	13:13 ごろ
主題に迫る手だて	○ 問題の把握ができるように、問題文への書き込みを全体で確認しながら行う。 ○ 算数的活動として、作業的な活動と発表を行う。作業したものを発表に活用するために実物投影機やデジタルカメラなどの機器を活用する。				



7 学習指導過程

段階	主な学習内容及び学習活動	指導上の留意点(○) 主題に迫るための手だて(◎)	資料・準備
導入 8分	1 前時を振り返る。 ・「順序よく考える」方法があった。 ・「まとめて考える」方法があった。 ○ 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">まとめて考えるよさを見つけよう。</div>	○ 前時の掲示物で、3要素2段階の計算方法には、2通りあったことを思い出させる。 ○ めあてをノートに書かせる。	前時掲示物
	2 問題場面を把握する。 ○ 挿絵を見て話し合う。 ○ 問題文を見て、話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ちゅう車場に車が17台とまっていた。 そこへ4台はいつてきました。 また6台はいつてきました。 車は今何台ありますか。</div>	◎ 問題場面を把握させるために、問題文の数の要素に四角囲み、質問に波線の下線、答えの単位に丸囲みを書かせる。	挿絵 問題文
展開 I 10分	3 増加する量に着目し、まとめて考える方法で問題を解く。 ・絵 ・数図ブロック ・式 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">はじめ 17台 </div>	○ 絵、図をかいたり、数図ブロックを操作したりさせ、増えた数をまとめて考えられるようにする。 ○ まとめて考えにくい児童には、矢印枠が書かれたカードを渡し、何台増えたのかを考えさせる。	数図ブロック ノート 矢印枠カード
	4 まとめて考える解き方を理解する。 ○ 考えた方法と式・答えを発表する。 $4 + 6 = 10$ $17 + 10 = 27$ 答え 27台 ○ 変量に着目する考え方をまとめる。 ・2回増えているのが、1回になる。 ○ 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">いくつふえたのかまとめて考えると、計算しやすい。</div>	○ 発表話型の確認をする。 ○ 絵や図、数図ブロックをもとに、変量に着目した考え方を発表させる。 ○ 掲示資料として児童の発表に使用したノート等をデジカメで撮影する。 ○ ノートにまとめを書かせる。	話型表 実物投影機 大型テレビ
展開 II 25分	5 練習題を解く。	○ 問題文とはじめの数、矢印枠を書いた練習題プリントを配布し、矢印枠に●を書かせて考えさせるようする。	練習題プリント
	6 チェックカードと感想を書かせる。	○ 本時の感想を書かせる。	
終末 2分			

8 板書計画



参考資料4

# 教師のカウンセリング的資質向上研修 基礎編

子どもや保護者と  
もっと上手に関わ  
りたい

子どもや保護者を  
理解するって、  
どういうこと？

教育相談の力を  
つけたいが、  
どうしたらいい  
か分からない

カウンセリング  
マインドって、実  
はよく分からない

## こんな経験ありませんか？

教育相談の研修を一度受けたが、  
あまり身につかなかった

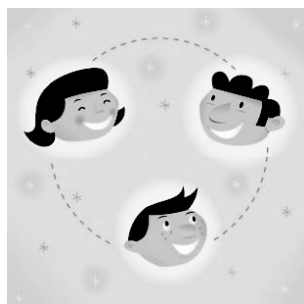
今回の研修は 8 回継続して行う  
ことで、段階を踏みながら、しっ  
かりと力を身につけていきます。

カウンセリングについて、本を  
読んだが、よく分からなかった

今回の研修では講師の臨床心理士  
が具体的に解説しながら、ワーク  
を交えて、体験的に学びます。

いろいろな人間関係が、  
ストレスになることがある

今回は人間関係の基礎になる、自  
分の考え方のくせや人間関係の  
持ち方についても振り返り、スト  
レスをためすぎない方法につい  
てもワークを交えて学びます。



みんなが笑顔になれるように、  
いっしょに学びましょう



## 教師のカウンセリング的資質向上研修 基礎編

さまざまな子どもや保護者との関わりの基礎になるのが、「子どもや保護者を理解し関係をつくること」「教師が自分自身を理解し精神的に安定していること」です。これらについて講義やワーク、ケース検討をもとに、カウンセリング的視点から体験的に学びます。全8回の継続研修を行うことで、基礎的なカウンセリング的資質の向上を目指します。

### 1. 日程と場所 日程：全8回、1回1時間半（水曜日18：30～20：00）

（予定：平成23年7月27日、8月17日、9月21日、10月19日、11月16日、12月14日、平成24年1月18日、2月15日）

場所：南九州大学都城キャンパス（都城市立野町3764番地1 TEL0986-21-2111(代) 駐車場有）

### 2. 対象 小・中・高等学校に勤務されている先生。守秘義務を守ることができる方。

（8回を1サイクルとしてプログラムした研修です。出来るだけ8回ご参加下さい。

7回以上参加された方には、修了書をお渡しします。）

### 3. 目的 子どもや保護者を理解し、適切に関わり援助するための、基本的な資質の向上を目指します。そのための教師自身の自己理解や気持ちのおさめ方についても理解を深めます。

### 4. 講師 南九州大学 人間発達学部子ども教育学科 春日由美（博士（心理学）・臨床心理士）

講師紹介：九州大学大学院博士後期課程修了。九州内の小・中・高等学校におけるスクールカウンセラーや教師等への研修経験、精神科クリニックや九州大学大学院附属心理教育相談室等でのカウンセリング経験も豊富である。現在、南九州大学人間発達学部附属子育て支援センターにて不登校や発達障害等への相談業務もやっている。心理学の専門的知識と臨床心理士としての豊かな経験をもち、今回の研修の講師を務める。

### 5. 研修内容（内容は多少変更になることがあります）

- ◇ 1回目：①オリエンテーション ②気になるケース1 ③自己理解と自分の考え方の癖
- ◇ 2回目：①自己開示 ②傾聴訓練 ③自己受容と他者受容
- ◇ 3回目：①こころを理解し大切にす ②本当の共感的理解
- ◇ 4回目：①こころの整理法 ②カウンセラーの面談・電話のコツ
- ◇ 5回目：①カウンセリング的視点からの共感的な子ども・保護者理解
- ◇ 6回目：①カウンセリング的視点からの多面的なケース理解
- ◇ 7回目：①ケース検討
- ◇ 8回目：①気になるケース2 ②復習と閉会式



### 6. 申込み方法・お問合せ先・費用

- 申込み期間：平成23年6月10日～7月10日。申込書に記入の上、FAXにてお申し込み下さい。  
FAX番号：0986-21-2113（南九州大学 人間発達学部子ども教育学科 宛て）
- お問合せ：南九州大学人間発達学部 春日まで TEL0986-21-2111(代)
- 費用：無料（可能であれば、アンケート調査での研究協力をお願いします）

主催：南九州大学人間発達学部子どもの学び研究所  
共催：都城市教育委員会、三股町教育委員会

教師のカウンセリング的資質向上研修 基礎編 日程と内容 (日程は変更になる場合があります)	
第1回 平成23年7月27日(水) 18:30~20:00	①オリエンテーション ②気になるケースの振り返り1 ③自己理解と自分の考え方の癖
	<input type="checkbox"/> 研修の進め方を説明します。 <input type="checkbox"/> 気になるケースについて、自由記述をもとに振り返ります。(第8回で再度検討) <input type="checkbox"/> 人間関係において、なぜ自己理解が大切なのかについて学びます。また、簡単な心理テストを使って自分の考え方や人間関係について振り返ります。
第2回 平成23年8月17日(水) 18:30~20:00	①自己開示 ②傾聴訓練 ③自己受容と他者受容
	<input type="checkbox"/> こころの安定と人間関係との関係について、ワークを行いながら簡単に学びます。 <input type="checkbox"/> 話の聴き方のワークを行います。 <input type="checkbox"/> 自分を受け入れること、他者を受け入れることについて学びます。
第3回 平成23年9月21日(水) 18:30~20:00	①こころを理解し大切にすること ②本当の共感的理解
	<input type="checkbox"/> 本当にこころを理解し大切にすることについて、ワークを行いながら学びます。 <input type="checkbox"/> 本当の共感的理解について、ワークを行いながら学びます。
第4回 平成23年10月19日(水) 18:30~20:00	①こころの整理法 ②カウンセラーの面談・電話のコツ
	<input type="checkbox"/> こころの整理法(気がかりなことを整理する方法)のワークを行います。 <input type="checkbox"/> カウンセラーが日頃行っている面談や電話における工夫について学び、ロールプレイを行います。
第5回 平成23年11月16日(水) 18:30~20:00	①カウンセリング的視点からの共感的な子ども・保護者理解
	<input type="checkbox"/> 架空事例をもとに、子どもや保護者に対する共感的理解について学びます。 <input type="checkbox"/> 自分が抱えている事例の子どもや保護者についての共感的理解のワークを行います。
第6回 平成23年12月14日(水) 18:30~20:00	①カウンセリング的視点からの多面的なケース理解
	<input type="checkbox"/> 参加者の事例や架空事例をもとに、全員でケース理解と見通しの立て方を練習します(共感的理解、家族や関係者を含めたケース全体の理解、見立てと今後の見通しの立て方を学ぶ)。
第7回 平成24年1月18日(水) 18:30~20:00	①ケース検討
	<input type="checkbox"/> 事例を提供してもらい、これまで学んだことを使って、全員でケース検討を行います。日頃の大変さをみんなで共有しましょう。
第8回 平成24年2月15日(水) 18:30~20:00	①気になるケースの振り返り2 ②復習と閉会式
	<input type="checkbox"/> 第1回目に記述していただいた、気になるケースへの見方がどのように変化したか、振り返ります。 <input type="checkbox"/> これまでの研修内容を復習します。ご協力頂ける方にはアンケートの記入をお願いします。 <input type="checkbox"/> 修了書授与。

## 参考資料5 研修参加者の研修終了後のアンケート抜粋

### 第2回研修会終了後の感想

- カウンセリング的理解は、学生時代から教員になるまで、何度も聞いたことで、頭では分かっているつもりでした。でも本当の需要とは、全くイメージが違っていました。少しだけ踏み込んで理解できたような気がしました。
- 「聞き手の5つの態度」のワーク、とても参考になりました。無関心な態度で聞かれると、本当に何を話していいか分からなくなりました。改めて、片手間で話を聞いてはいけないと思いました。加えて、自分は多くの人に支えられていることを痛感しました。生徒達にもそういう思い（事実）をしっかり受け止めて欲しいなと思うと同時に、自分は、他者から受け入れられているという思いを何時ももてるようにしてあげたいと思ったことでした。有難うございました。

### 第3回研修会終了後の感想

- “相手の立場に立って考える”私もよく口にします。しかし、今日講習を受けて、本当に口だけだったなあと思いました。特に使途に対してもですが、我が子に対しては、相手の立場に立つどころか知りたいたいという気持ちが働いていたことがよく分かりました。まだまだですね。

### 第4回研修会終了後の感想

- “言葉にならない感じ”にきちんと名前（名称）がついていると言うことが驚きでした。興味深かったです。毎会出席して思うことは、カウンセリングの手法？やりかた、注意すべき事を勉強にきているのに演習（？）することで、自分自身が癒されていると言うことです。とても不思議な感じがします。でも、面白かったです。有り難うございました。

### 第5回研修会終了後の感想

- いつも、「自分」を理解することの大切さが分かった。自分を理解していないと人とは関われない。つい、親のせいになしたり、「今どきの親は・・・、だから、子どもは・・・」みたいに思ってしまうが、そうではないということを。相手の立場に立つ大切さ。立つと見えてくること、相手との関わり合い方を考えることができた。A男の立場に立つと涙が出た。まずは、自分を大切に。何時もたくさんの興味深い資料と研修、有難うございます。
- 今回の内容は、私が一番欲しいと思っているものでした。生徒を「叱る」というのは、本当に難しいと感じています。失敗もたくさんしました。生徒の気持ちも分かっているが、「間違っていることは、間違っているのだから」と叱ったこともありました。どう、思いを伝えるか、難しいですね。でも、少し、胸（心）の中にホッとしたものを今日の研修で感じました。保護者や生徒との距離の取り方も近からず、遠からず、難しいですが、思い入れの強すぎる私にはよい勉強になりました。とにかく、最後にやったワークショップはとても勉強になりました。A男やお父さんの気持ちに寄り添えば、言葉かけも随分と違ったものになりますね。つつい余裕をなくしがちですが、いつも、ワークショップにおいて余裕をもって生徒達と接していきたいとまたまた思ったことでした。有難うございました。
- 普段、目の前にするのが、やっとなりの生活のような気がします。自分のことや他人のことをゆっくり考えるよい機会を下さって有難うございます。会を終えるたびになんとなくほっとした気分になります。

### 第6回研修会終了後の感想

- この勉強会に参加した当初は、自分のクラスの生徒のことを思い浮かべながら話を聞いていました。意識して接するようになったためか、距離も近くなり、関係は改善され落ち着いてきたように思います。一方で、また、全く関係のない別の生徒との関係で悩み始めています。もう一度、初めから振り出しに戻って生徒との関係を見つめ直して、どう関わっていけばよいのか考えていきたいと思っ

ています。有難うございました。

**第7回研修会終了後の感想**

- 研修のように、活字にして分析すると見えてくるものは沢山あるのに、学校生活において直接関わっている生徒と衝突すると、自分の気持ち・感情が中心になってしまうなあと気付かされました。当事者として関わっていると、盲目で見えない部分や気付かない部分が多くなるなあと思いました。冷静に、なおかつ客観的に観察し判断して焦らずに関わっていくことが大切なのだと感じました。
- 久しぶりに心の天気をしてみて、自分の気持ちの変化に気付きました。以前はくもりが多かったような・・・気がします。日々によって気持ちや感じは変わりますが、その変化にいちいち反応しない、気にしなくなったことが一番変わったなと思いました。ラスト1回頑張りたいと思います。

**第8回研修会終了後の感想**


- カウンセリングについてとても興味を持っていたので、8回が毎会楽しみでした。分かっている共感的理解や他者理解は難しいなあと思いました。まだ、内容が抽象的な部分もあり、「よし、これだ」となるまでには、もちろん勉強不足もあるし、まだまだなんだと思いました。もっと、勉強して生徒のために生かせるようになりたいです。そのためには、また、このような機会があれば参加したいと思います。有り難うございました。
- まず、自分自身を知ること。理解すること。受け入れること。変わること。人を知るには、相手を理解し、受け入れ、変えるにはまずは「自分」なんだということを1回目に聞いて大きな衝撃を受けました。でも、自分を見つめ、自分を好きになろう、自分の考え方や有り様を変えていこうと努めることが出来ました。そうすることで、心のモヤモヤがスッキリすることができました。もっと、どっぷり学びたい気持ちになりました。南九大の学生はとても幸せだなと思います。今まで有り難うございました。また、このような機会があれば学びたいです。
- 有り難うございました。研修に参加してとてもよかったです。私のクラスに2年以上にわたって不登校の女子がいて、その子との関わり方を学びたいと思って参加しました。研修の回を重ねるごとに先生が話される内容がなんとなくわかってきたよう（な気）に思います。自分を理解することがまず大事であること、そして知識より想像力がとても大切であることを学びました。クラスの生徒一人一人のことを心掛けるようになり、一人一人の心の中を想像し話しかけるようになった・・・と思います。研修に頑張って参加し、修了証も頂けて本当によかったです。有り難うございました。
- 第1回目から第8回目まで、貴重なお話を有り難うございました。私は、先生の言われる言葉が、毎回毎回本当に心にしみました。「菜々子と先生」の先生にとっても近く、反省することばかりでした。まだまだ、この菜々子と先生の先生のようにしてしまふことがあります。どうしたらいいのかなと悩むことも多いです。もっと勉強していきたいです。このような会をまた作って下さい。今回、このような機会を設けていただいた先生、大学の方々に感謝しています。有り難うございました。

カウンセリング的資質向上研修基礎編アンケート集計結果  
 (8回目の研修会終了後 参加者36名の集計結果 H24.2.15実施)

よろしければ、以下のアンケートにお答えください。アンケートの結果は、研修の記録や今後の研修の検討として活用させていただきます。以下のそれぞれの質問で、あてはまるものに○をつけてください。今回は、継続研修体（第1回目～第8回目）について、ご記入ください。

番号	質問項目	選択肢	数	%	備考
1	研修の内容を理解できた。	とてもそう思う	15	41.7	
		少しそう思う	20	55.6	
		あまりそう思わない	0	0	
		全くそう思わない	0	0	
		無回答	1	2.8	
2	研修の内容は、興味深いものだった。	とてもそう思う	28	77.8	
		少しそう思う	8	22.2	
		あまりそう思わない	0	0	
		全くそう思わない	0	0	
3	研修内容は、自分の今後に役立つものだった。	とてもそう思う	26	72.2	
		少しそう思う	10	27.8	
		あまりそう思わない	0	0	
		全くそう思わない	0	0	
4	「カウンセリング的資質」とはどのようなものかについて、研修を受ける前よりも理解が深まった。	とてもそう思う	21	58.3	
		少しそう思う	15	41.7	
		あまりそう思わない	0	0	
		全くそう思わない	0	0	
5	研修を受ける前と受けた後では、 <u>自分自身</u> に対する考えや気持ちの持ち方が変化した。	とてもそう思う	15	41.7	
		少しそう思う	19	52.8	
		あまりそう思わない	2	5.6	
		全くそう思わない	0	0	
6	研修を受ける前と受けた後では、 <u>仕事に関する意識や態度、行動</u> が変化した。	とてもそう思う	13	36.1	
		少しそう思う	21	58.3	
		あまりそう思わない	2	5.6	
		全くそう思わない	0	0	
7	研修を受ける前と受けた後では、以前より精神的に落ち着いた。	とてもそう思う	8	22.2	
		少しそう思う	20	55.6	
		あまりそう思わない	8	22.2	
		全くそう思わない	0	0	
8	研修を受ける前と受けた後では、以前より <u>仕事に関する余裕</u> が出た。	とてもそう思う	5	13.9	
		少しそう思う	14	38.9	
		あまりそう思わない	16	44.4	
		全くそう思わない	1	2.8	
9	カウンセリング的資質について、今後も学びたい。	とてもそう思う	30	83.3	
		少しそう思う	5	13.9	
		あまりそう思わない	1	2.8	
		全くそう思わない	0	0	
10	今回の研修を受講して、良かった。	とてもそう思う	35	97.2	
		少しそう思う	1	2.8	
		あまりそう思わない	0	0	
		全くそう思わない	0	0	

参考資料6



都城市・南九州大学人間発達学部 子どもの学び研究所主催 市民講座

## 第2回教育シンポジウム「学力向上」

異なった文化・異なった伝統・同じ理念  
—子どもの学習意欲を国際的視点から考える—

**「Improvement of Academic Ability」**  
**Different Cultures, Different Traditions with the Same Idea**  
**-Examining Children's Learning Motivation from International Perspective-**

最近、日本の子どもの学習に対する情意面でいくつかのことが心配されています。子どもたちが自分で勉強するだけではなく、大人と一緒に、特に親子で力を合わせて、どんな困難な課題にも挑戦できるようなることがこれからの社会ではとても大切なことです。そのためには、やはり学力は重要です。そのことは国が違っても同じ事です。今回は、PISA調査(OECDが行った生徒の学習到達度調査)世界一のフィンランドからお二人のゲストをお招きし、真の学力向上にとって何が大切なことかについて考えます。南九州大学人間発達学部子ども教育学科は、地域の皆さんと力を合わせて、子どもと大人の育ちを応援します。

Our children, our future! 都城、がんばれ! 宮崎、がんばれ! 日本、がんばれ!

日時: 2011年9月25日(日) 13:50~16:30  
場所: 南九州大学都城キャンパス2号館 2102 (1F)

### プログラム (Program)

13:30 受付開始 (Registration)  
13:50 歓迎の挨拶 (Welcome Remarks)

#### 講演 (Lectures) (英日通訳あり)

14:00 「フィンランドにおける子ども教育の特徴」 (Education for Children in Finland)  
ペンティ・ハッカライネン教授 (Dr. Prof. Pentti Hakkarainen)  
14:50 休憩 (Break)  
15:00 「情操豊かな子どもを育てるために」 (Enrichment of Children's Sentiment)  
ミルダ・ブレディキュ博士 (Dr. Milda Bredikyte)  
15:50 休憩 (Break)  
16:00 ふれあいタイム (Chatting over coffee)  
16:30 閉会の挨拶 (Closing Remarks)



## 「フィンランドにおける子ども教育の特徴」

ペンティ・ハッカライネン教授

<講師紹介>

世界で著名なヴィゴツキー理論の研究者であり、心理学者・教育学者。2008年までフィンランドオウル大学教育科学学部副学部長。現在、国際ヴィゴツキー学会副会長やロシア・東欧心理学ジャーナル編集長。その他、フィンランド国家教育委員会・国立福祉保健研究発達センター（幼児教育・初等教育における合同諮問委員会）・国家高等教育委員会・国家学校委員会（義務教育学校）などの数多くの委員をされています。同教授はヴィゴツキー理論の研究をめぐって、幼児教育から高等教育までの創造的かつ想像的な授業並びにナラティブ学習と子どもの発達などの領域で活躍されています。



## 「情操豊かな子どもを育てるために」

ミルダ・ブレディキュ博士

<講師紹介>

欧米で著名な幼児教育専門家。国際子ども発達プログラム「step by step」のコーディネーター、リトアニアヴィリニウス教育大学講師、リトアニア国家早期・初等教育委員会の専門委員として、幼児教育におけるヴィゴツキー理論の研究をやってこられました。現在、フィンランドオウル大学カヤーニ校教師教育学部遊び研究センターリーダー、アメリカカリフォルニア大学サンディエゴ校比較認知研究所客員研究員、カナダサイモンフレーザ大学客員研究員として活躍されています。同博士は教育実践の新しいモデルと新しい実験コースの開発を行い、幼児の文化的かつ心理的な発達、特に子どもの発達に対するアート（演劇）の与える影響の研究やナラティブプレーによる創造的かつ想像的な授業と学習の領域で活躍されています。



主催者： 都城市・南九州大学人間発達学部 子どもの学び研究所

参加費： 無料(どなたでも参加できます)

申し込み：9月21日までに氏名、連絡先、電話番号を記入して、「シンポジウム 学力向上」件名でファックスかEメールでお申し込みください。

FAX: 0986-21-2113; E-mail: chou@nankyudai.ac.jp

当日の受付も可能です(当日の13:30から受付です)。



## 参考資料7

## 第2回教育シンポジウム「学力向上」に参加して

人間発達学部子ども教育学科1年生 今村 由

今回の講義は、フィンランドの教育についてでした。まず、ベンティ先生の講義です。フィンランドでは、0歳から5歳の子どもたちに早期教育をするそうです。乳幼児センターで教育するか親が教育するかのどちらか選択します。しかし5歳までの教育にはお金がかかるので、センターに行く子どもは2歳が4割、3歳が5割、4歳5歳が6割と少ないです。一方、6歳になると教育費がかからないので9割と増えます。日本では、6歳になれば小学校に行きます。しかし、フィンランドでは、小学校に行く前の準備として幼稚園に行きます。それは、センターというのは学校ではないからです。

私は、今回の講義を聞く前に授業で習ったデンマーク教育に興味をもって夏休みに本を読んでいた。デンマークでは、まだ小学校の準備が出来ていないと思えば7歳から小学校に入学することができます。その他にもデンマークとフィンランドは、似ているところがたくさんありますが、その一方で日本とは全く違います。話を聞くまで、私は日本と教育の仕方はあまり変わらないだろうと思っていました。しかし、話を聞いていくと全く違ってびっくりしました。政府が「子どもがやりたいこと」について調査したところ、一番多かった答えは「パパママと遊びたい」でした。それが子どもにとって一番嬉しいそうです。この調査を日本でしたら、このような答えはあまり出てこないと思いました。

フィンランドでは、日本と同じで義務教育は9年と決まっています。1970年カリキュラムの1つという方針が始まりましたが、2000年にその方針はなくなり、指導要領が出ました。1～6年は担任がついていて、7～9年は教科別の担任がつくというように違いができました。

そして、8学年(14歳)になるとPISAという学力到達度調査を受けます。このPISAでフィンランドは数学、国語、科学で良い成績を収めました。私は、この結果を聞きすごいなと思っていました。しかし、「フィンランドではPISA教育というPISAに合った教育をしたからこれは良い成績ではなく普通なのだ。だから、他の国より高いのだ。」とおっしゃっていました。PISAで良い成績を取るためだけの教育が子どもにとって良い教育になるのだろうかと思いました。私は、子どもにとって良い教育とは、知識を身につけるのはもちろん、精神的身体的にも成長できるように大人が手助けしていくことだと思いました。

次に、ミルダ先生の講義です。ミルダ先生と一緒に遊んでストーリーを作っていくことをやっており、想像・創造(想像して遊びを作る(創造))、参加する意欲とチャレンジ精神が大事だとおっしゃっていました。話の中で、今の子どもたちは、ゲーム・コンピューターによって技術的スキルはあるがゆっくり考えたりすることは出来ないとありました。だから、ミルダ先生は指人形を使ったりして子どもに伝えたそうです。そのやり方は、壁に絵を描きながら、子どもと物語を展開させ物語や主人公に興味を持たせ好きになってもらう、そして2、3日後に子どもの前に出てプレイするというものでした。重要なのは、話すことと聞くことで物語と同じではだめ、展開と尊重が大事だそうです。プレイが終わった後、学生が子どもがどんな反応だったか、などを絵に描き新しい物語が完成します。できるだけたくさんの時間をあげることで子どもは自分で反省ができるそうです。そして、7人多いときは13人くらいでする盗まれた宝探し(Searching for the stolen treasure)というものを行った結果、グルー

プ全体、個々人、大人としての学生の成長があったそうです。

私は、大学に入学して数々のボランティアに参加してきました。最初は、自分のことで精一杯で周りを見る余裕がありませんでした。しかし、慣れてくると子どもだけでなく、子どもに対する同級生、先輩、先生の姿を目で追うようになりました。子どもと関わることによって、自分には足りないもの自分が負けないものが見えてきます。私たちだけでなく参加した親御さんや子どもたちも何か得るものがあると思います。実際、以前参加したボランティアのアンケートに「子どもが初めての場になるとこんなにおとなしくなるとは知りませんでした」というような答えがありました。こういうことを気づけるといのは、大事なことだと思うのでいろんな方々に参加してほしいと思います。そして、私たち学生もボランティアを通してしか経験できないこともあると思うのでこれからもたくさん参加していきたいです。

今回の講演会を通じて、まだまだ日本にはない教育の仕方が世界にはたくさんあるのではないかと考えたのでまた本を読んだりインターネットを使ったりして調べてみたいと思います。いろいろな国の教育の違いを知ることも、これから教育、保育現場に立つ私たちにとって大事なことだと思うので残り3年半の大学生活で土台をしっかり作りたいです。

参考資料8 表1 平成23年度教員免許状更新講習

講座名	必修領域	教育実践と教育改革
趣 旨	・近年の教育の動向や子どもの変化などの講義、資料や具体的な事例に基づいて、小グループでのディスカッションを通して各自の実践を省察する。	
日 時	平成23年11月26日(土)～27日(日)	
会 場	南九州大学 都城キャンパス	
受講対象者	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教諭・養護教諭	
講座日程	平成23年11月26日(土)	
	8:20～8:40	受 付
	8:40～8:50	オリエンテーション
	8:50～9:50	グループワーク「自己の教育実践紹介」
	10:00～12:30 (途中10分休息)	講義・演習「PISA調査で明らかになった学力の問題と 新学習指導要領について」 黒木 哲徳 (人間発達学部教授)
	12:30～13:30	昼食・休憩
	13:30～15:50 (途中10分休息)	講義・演習「子どもの現状と生徒指導の課題」 澁澤 透 (人間発達学部教授)
	16:00～16:30	筆記試験
	平成23年11月27日(日)	
	8:20～8:40	受 付
	8:40～8:50	オリエンテーション
	8:50～9:50	講義「教育政策と学校内外の連携」 神田 嘉延 (人間発達学部教授)
	10:00～11:00	講義「子ども観・教育観の変遷」 國枝 裕子 (人間発達学部講師)
	11:10～12:10	講義・演習「発達障害者の理解と支援」 内田 芳夫 (人間発達学部教授)
	12:10～13:10	昼食・休憩
	13:10～14:30	講義・演習「発達障害者の理解と支援」 内田 芳夫 (人間発達学部教授)
	14:40～15:50	グループワーク「自己の振り返り」
	16:00～16:30	筆記試験
	16:30～16:50	アンケート記入

講座名	選択領域	気がかりな子どもの支援
趣 旨	・講義、実践事例映像ならびに当事者による学校体験についての話題提供をもとに、気がかりな幼児・児童・生徒やそのような子どもをもつ保護者理解とその支援のあり方を小グループのディスカッションを通して各自の実践を省察する。	
日 時	平成23年10月29日(土)	
会 場	南九州大学 都城キャンパス	
受講対象者	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教諭・養護教諭	
講座日程	8:30～8:50	受 付
	8:50～9:00	オリエンテーション
	9:00～11:00	講義・演習「乳幼児期からの支援で大切なこと」 黒川 久美 (人間発達学部教授)
	11:10～12:10	講義・演習「気がかりな子どもを抱える保護者支援」 春日 由美 (人間発達学部准教授)
	12:10～13:10	昼食・休憩 (1時間)
	13:10～14:10	講義・演習「気がかりな子どもを抱える保護者支援」 春日 由美 (人間発達学部准教授)
	14:20～16:20	講義・演習「気がかりな児童・生徒の理解と支援」 内田 芳夫 (人間発達学部教授)
	16:30～17:00	筆記試験
	17:00～17:20	アンケート記入

参考資料9 表2 平成23年度 更新講習受講者評価結果

単位%

	必修領域<教育実践と教育改革>				選択領域<気がかりな子ども支援>			
	よい	だいたいよい	あまり十分ではない	不十分	よい	だいたいよい	あまり十分ではない	不十分
講習の内容方法	50	40	10	0	70	28	0	2
知識技能習得成果	57	43	0	0	65	33	0	2
運営面	80	20	0	0	70	28	0	2

## &lt;感想&gt; 感想の一部を掲載

- ・学び合いを中心ということ、そして少人数だったこともあって、受講者同士が仲良くなれてとてもよかった。
- ・異校種のグループは、異なる実践や悩みも聞くことができ、とても参考になった。
- ・今までの自分を振り返ることができ、これからのやる気につながった。
- ・教育とは何かを考える2日間でした。答えがないことですので、日々実践のなかから見いだすことになりませんが、その示唆をたくさん与えていただきました。
- ・たんなる講義だけではなく、グループワークを取り入れた講習は、とても有意義でグループ内の人とも仲良くなれてよかったです。
- ・専門的な内容を分かりやすく、そして熱心に教えていただきました。
- ・本大学の学生は、このような講義を受講できるので幸せだと思います。
- ・県内ではあまり受講したいと思える講座がなく、今まで仕方なくという部分も正直あったのですが、この大学の講習はとても興味もて、自分から受けたいと思うものでした。とてもよかったです。
- ・受講内容はとてもすばらしく、南九州大学人間発達学部がこんなに充実しているとは知りませんでした。
- ・次年度もこのような特別支援教育の講習会を強く希望します。
- ・非常に丁寧な対応をしてくださったので、2日間快適に講習を受けることができました。また明日から先生としてがんばろうと思える講習内容でした。
- ・必修、選択のどちらも受講しましたが、講義をしてくださった先生も進行の先生も、とても親切で熱心で、この大学に入学して勉強できればと思いました。
- 講義内容、方法など、受講者の興味関心を高めるようにとても工夫されていたが、可能であればもっと具体的な事例をあげて講義をして欲しい。
- 夏季休業中など長期休業中に実施して欲しい。
- 選択領域の講座を増やして欲しい。
- 1日目と2日目のグループが異なるようにして欲しい。そうすると、さらに多くの交流ができる。
- 学生といっしょにディスカッションができる場があると、受講者にとっても勉強になるのではないのでしょうか。

参考資料10 上海師範大学附属小学校のホームページの記述

接待日本南九州大学の教授们

作者(来源): 张荣萍 发布时间: 2011-09-06

9月5日下午上师大一附小接待了来自日本南九州大学的三位教授。他们分别是理学博士黑木哲德——日本数学教学大纲制定者、教授赤松国吉和副教授宫内孝, 此行的目的在于调研中国的教学工作。

他们一行首先观摩了教研副组长费立华的一节数学课。在这节课上费老师以学生喜爱的《喜洋洋和灰太狼》动画故事为主线, 把一节枯燥的计算题教学课程通过设计情景来一次次激发学生们不断探究, 解决问题的学习兴趣。课后教授们进行评课。赤松教授评价说, 在日本暑假后开学2周内小学生还处于放鸭子状态, 而中国的孩子到下午第2节, 还能安静坐着听课, 中国的孩子们表现非常棒。宫内教授评价我们的老师教学水平高, 学生相较于日本学生学习内容学得更深, 希望以后可以展开更多的交流。之后又从数学课上引出幼小衔接问题: 如何在这么短的时间里培养学生学习习惯; 中日教师任课情况对比; 课程安排、作业量、师资来源、今天所听课的班级所在的水平高度; 教研活动每周活动情况等等问题。安娜副校长还介绍了我校办学理念、育人目标; 课程发展部主任范芳芳和数学教研组长张荣萍则从教育教学方面一一作出解答。最后教授们参观了我的校园, 包括阅览室、益智房和游艺房, 学生部部长包黎介绍了阅览室作为一个开放式活动区域, 学生可以自由地去取阅感兴趣的读物从而扩充自己的视野, 并诠释了学校的精神: 勤、恒、容、合。

通过与日本同行的交流, 我们看到了我们的优势, 同时也看到不足之处。我们将进一步思考增效减负的措施, 真正让学生学得快乐。





